

令和5年度
最高裁判所宮繕技官選考採用試験

受験案内

1. 業務内容及び待遇

【業務内容】

- 裁判所では、全国各地にある450あまりの裁判所施設を、整備、維持するため、裁判所施設に精通した技術系国家公務員である「営繕技官」を配置し、施設面から裁判の運営をサポートしています。
- 最高裁判所事務総局経理局営繕課に約60人、全国8か所の高等裁判所事務局会計課に約40人の営繕技官が配置されています。
- 営繕技官は最高裁判所の営繕課を中心に配置され、建築(意匠・構造)、電気設備、機械設備の専門分野ごとに、裁判所の施設の設計・積算や工事監理などの工事に関する業務を主に担当しています。工事以外にも、予算要求や、施設整備に関する企画立案、工事の検査など多岐にわたる業務を手掛けています。

【待遇】

- 採用後は、特別職の国家公務員として任用します。
- 基本給は、210,960円（大卒程度で最高裁判所に勤務する場合）
原則として、150,100円から247,600円までの範囲（令和5年4月1日現在）で学歴・職歴等により個別に決定されます。このほか、給与法等の定めるところにより、諸手当が支給されます。
- 勤務時間は1日7時間45分、原則として土曜日、日曜日及び祝日等の休日、年末年始は休みです。
- 休暇には、年20日の年次休暇（4月1日採用の場合、採用の年は15日。残日数は20日を限度として翌年に繰越し）のほか、病気休暇、特別休暇（夏季、結婚、出産、忌引き、ボランティア等）、介護休暇等があります。
- ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）支援制度として、育児休業、フレックスタイム制等があります。

2. 応募資格

応募資格は以下のいずれかの条件を満たす者とします。

- 大学院、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校の建築、電気、機械等工学関係の学科の卒業者（令和6年3月までに卒業する見込みの者を含

む。)

- 民間企業、官公庁、国際機関等において、建築、土木、電気、機械のいずれかに関する職務経験を有する者

※ 最終合格者の方には、最高裁判所が指定する日までに勤務証明書等を提出していただきます。勤務証明書等が提出できない期間は、勤務経験に通算されませんので、ご注意ください。また、勤務証明書等を提出できない場合又は虚偽の記載がなされている勤務証明書等があった場合には、採用予定が取り消される場合があります。

- 以下に該当する方は応募できません。
 - ① 日本の国籍を有しない者
 - ② 国家公務員法第38条（欠格条項）に該当する者
 - ③ 平成11年改正前の民法の規定による準禁治産の宣告を受けている者（心神耗弱を原因とするもの以外）
 - ④ 国家公務員法に規定する定年年齢を超える者

3. 採用予定庁

最高裁判所

4. 採用予定時期

令和6年4月1日

※応募資格（社会人経験者など）によっては、令和5年10月1日以降に採用する可能性があります。

5. 採用予定人数

建築設計 2名

電気設備設計 1名

機械設備設計 3名

6. 選考日程

受付期間	5月2日（火）～6月12日（月）【受信有効】 ※受付期間を延長しました。 受験票をメールで通知します。
第1次選考	6月25日（日）（最高裁判所で実施） 予定時間 9時30分～12時30分
第1次選考合格発表	7月6日（木） 第1次選考受験者全員に、結果をメールで通知します。
第2次選考	7月18日（火）～7月21日（金）のいずれかの日（最高裁判所で実施） 第1次選考合格者に、日程をメールで通知します。
最終合格発表	8月3日（木）予定 第2次選考受験者全員に、結果をメールで通知します。 ※採用諾否の意向照会を行った上で、採用予定者には内定を通知します。

7. 選考方法

- 第1次選考 筆記試験（専門試験（択一式）、作文）
- 第2次選考 口述試験（人物試験（個別面接））

8. 応募方法

【応募手順】

- ① 営繕技官採用ホームページから必要書類をダウンロードする。
https://www.courts.go.jp/saiyo/siken/eizengikan_saiyou/index.html
- ② 必要書類をPDF形式で【宛先】にメールで送信する。
※メール件名は、「営繕技官選考・氏名・応募業種について」にする。

【必要書類】

○ 履歴書（様式1）

※チェックボックス（応募する業種）をチェックすること。

※証明写真は、提出日から3か月以内に撮影した写真とする。

※ファイル名は「履歴書（業種・氏名）」とする。

【受付期間】 令和5年5月2日（火）～6月12日（月） **【受信有効】**

※受付期間を延長しました。

※応募者多数の場合には締切日前に受付を終了する場合がある。

【宛先】 sc.jinji.soumuka@wm.courts.jp

9. 問合せ先

最高裁判所事務総局人事局総務課職員任用第一係

TEL 03-4233-5317（平日 8:30～17:00）

10. 1次選考（筆記試験）の概要

（1）専門試験

応募する業種に応じた、専門知識などの択一式試験

解答数：20題

解答時間：90分

ア 業種：建築設計

建築分野（計画、環境・設備、構造、施工）から出題

建築分野の基礎学力を確認する観点から、大学の専門課程で学習する基礎的な問題を出題

試験問題例（建築計画）

建築物とその周辺環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 総合設計制度における公開空地とは、一般に開放され、不特定多数の人が自由に利用できる敷地内の広場のことであり、歩道上の空地やアトリウム空間を含まない。
2. 高層建築物によるビル風の影響を低減するために、建物のコーナー部をカットする隅切りを行った。
3. 空調負荷を低減するために、夏期や中間期において、夜間の外気を導入することにより昼間の熱負荷を除去するナイトページを採用した。
4. 確保される採光、通風等の程度の指標となる天空率の考え方により緩和できる規制には、日影による建築物の高さ制限は含まれない。
5. 効果的な環境設計のためには、地域の気候条件のほか、立地条件に応じたマイクロクライメートの把握も必要である。

【正答 1】

イ 業種：電気設備設計

電気分野（電気一般、建築設備）から出題

電気分野の基礎学力を確認する観点から、大学の専門課程で学習する基礎的な問題を出題

試験問題例（電気一般知識）

直流送電に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 安定度の問題がないため、長距離送電に適している。
2. 交流送電と比べて、送電線路の建設費が安価であるが、交直変換設備が高価である。
3. 交直変換設備から高調波、高周波を発生するのでフィルタが必要である。
4. 調相設備を設置して無効電力を調整することが必要である。
5. 交流送電と比べて、高電圧大電流の遮断が容易である。

【正答 5】

ウ 業種：機械設備設計

機械分野（建築一般、建築設備）から出題

機械設備分野の基礎学力を確認する観点から、大学の専門課程で学習する基礎的な問題を出題

試験問題例（建築設備）

空気調和設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 定風量単一ダクト方式とは、空調機より送られる風量が一定であるため、空調負荷の変動に対して、送風温度を調節する方式である。
2. 変風量単一ダクト方式とは、空調機により処理された空気を、各部屋又はゾーンごとの負荷に見合った風量に調節して送風する方式である。
3. 中央空調方式とは、空調用熱源機器等を機械室に集中的に設置して空調を行う方式で、小規模から中規模の建物に適している。
4. 個別空調方式とは、空調用熱源機器等を機械室に集中的に設置せず、空調を必要とする部屋ごとに空調機器を個別に対応させる方式である。
5. ビル用マルチパッケージ方式とは、室外機 1 台に対して室内機を複数台設置できる方式で、室外機の設置スペースが比較的コンパクトにできるなどの特徴がある。

【正答 3】

(2) 作文試験

文章により与えられたテーマに関する理解力などについて表現する筆記

解答数：1 題 解答時間：60 分